

記者提供資料

平成21年 4月28日
四国地方整備局那賀川河川事務所

平成19年度 河川水辺の国勢調査（底生動物調査）結果について

平成19年度に那賀川水系において実施した生物調査の結果について、別紙資料のとおり概要を発表します。

【問い合わせ先】

那賀川河川事務所 調査・品質確保課 TEL : 0884-22-6562
FAX : 0884-22-7062
E-mail : nakaga60@skr.mlit.go.jp

調査・品質確保課長 山下 正浩
専門員 佐藤 大介

《那賀川水系の調査結果（底生動物）の概要》

那賀川は、河口から汽水域にかけて帯状に広がる干潟や潮止め堰下流に形成されたワンド、下流域の交互砂洲や北岸堰の湛水域等様々な河川環境を有しています。また、桑野川の流れは緩やかで、周辺の水田との用水路による連続性も保たれているため、それぞれの環境に特有の底生動物が生息していました。

今回の底生動物調査によって、那賀川汽水域では干潟を有する環境を反映し、泥上やヨシ原にはケフサイソガニ、シオマネキ、ハクセンシオマネキ等のカニ類、泥の表層には、キスイタナイス、ニホンドロソコエビ、泥中にはヨコヤアナジャコ、ニホンスナモグリ等が多数生息していました。また、那賀川の下流域では、瀬において流水性のエルモンヒラタカゲロウやアカマダラカゲロウ、フタバコカゲロウ、ウルマーシマトビケラ、オオシマトビケラ、ヒゲナガカワトビケラ、スジエビ等清らかな流れを好む種が多数生息していたほか、流れの緩やかな箇所やワンド内では、掘潜性のトウヨウモンカゲロウ、キイロカワカゲロウやハグロトンボ等が確認されました。

桑野川においては、湛水域を形成していた夏季には、掘潜型のイトミズ科、ユスリカ科や匍匐型のヒメトビイロカゲロウが優占していましたが、水位が低下して瀬が出現した早春季には、造網型のコガタシマトビケラや匍匐型のアカマダラカゲロウが優占する群集へ変化しました。また、クロダカワニナをはじめとするカワニナ類が調査地区内に広く分布していました。

①調査方法及び調査時期

調査方法： 定量採集、定性採集

調査地点数： 那賀川2カ所、桑野川1カ所

調査時期： 8月、1月

②現地調査による確認種数

水系名	調査項目	前々回 (平成8年度)	前回 (平成13年度)	今回 (平成19年度)
那賀川	底生動物	158	221	260

③確認できた重要種(26種)

	種和名	過去の結果		RDB	
		前々回	前回	環境省	徳島県
底生動物	イシマキガイ	○	○		絶滅危惧Ⅱ類
	ヒロクチカノコガイ	-	-	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	クロダカワニナ	○	○	準絶滅危惧	
	フトヘナタリガイ	-	○	準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ウミゴマツボ	-	○	準絶滅危惧	
	モノアラガイ	○	○	準絶滅危惧	
	ウネナシトマヤガイ	-	○	準絶滅危惧	
	ヤマトシジミ	○	○	準絶滅危惧	
	ヒメヌマエビ	-	○		準絶滅危惧
	ヒラテテナガエビ	-	○		準絶滅危惧
	ニホンスナモグリ	-	○		準絶滅危惧
	ヨコヤアナジャコ	-	○		準絶滅危惧
	トリウミアカイソガニ	-	-		絶滅危惧Ⅱ類
	モクズガニ	○	○		絶滅危惧Ⅱ類
	ケフサイソガニ	○	○		絶滅危惧Ⅱ類
	ハマガニ	-	-		絶滅危惧Ⅱ類
	アカテガニ	-	○		準絶滅危惧
	ヒメアシハラガニ	○	-		絶滅危惧Ⅱ類
	ユビアカベンケイガニ	-	-		絶滅危惧Ⅱ類
	フタバカクガニ	-	○		絶滅危惧Ⅱ類
	ベンケイガニ	-	-		絶滅危惧Ⅱ類
	シオマネキ	○	○	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ハクセンシオマネキ	○	○	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	キイロサナエ	-	○		準絶滅危惧
	ホンサナエ	-	-		準絶滅危惧
	ヨコミゾドロムシ	-	○	絶滅危惧Ⅱ類	

RDB

環境省:改定レッドリスト(底生動物、2006・2007)に掲載されている種

徳島県:徳島県レッドデータブック(2001)に掲載されている種

④確認できた外来種(6種)

	種和名	過去の結果		外来生物法による分類
		前々回	前回	
底生動物	ハブタエモノアラガイ	-	-	
	サカマキガイ	○	○	
	コウロエンカワヒバリガイ	○	○	要注意外来生物
	カニヤドリカンザシゴカイ	○	○	要注意外来生物
	アメリカフジツボ	○	○	
	アメリカザリガニ	○	-	要注意外来生物

平成19年度 河川水辺の国勢調査（底生動物調査） 調査地区位置図

